資料①

伝統文化芸術振興事業の進捗状況



目次

- 令和7年度事業の実績
- 令和8年度の中間報告
- 今後の主なスケジュール

令和7年度
事業の実績



事業の実施状況

事業数

令和7年度

163

■「成長期」と位置付けた「第2期実施計画」の1年目である令和7年度では、第1期実施計画を経て設定した七つの柱に共通する4つの課題を、重点的かつ網羅的に取り組むことで、めざすべき姿の実現に取り組んだ。



第2期実施計画で取り組む4つの課題

01　効果的な情報発信

－もっと知りたくなる・伝えたくなる－

02　鑑賞・学習・体験の機会の確保

－誰もが「みて・ふれて・まなぶ」－

03　後継者・担い手育成

－担い手が育つ・文化がつながる－

04　資金確保

－応援したくなる、され続ける－

KPI達成度

KPI：27項目（第2期）

	達成	未達成	R7未計測
項目数	10件	15件	2件
割合	40.0%	60.0%	―

未達成であった主な理由
（共通性の高い内容）

■「単純な情報」発信になっている傾向にあり、イラスト・グラフ等の視覚情報や、関連情報の掲載など発信の工夫が不足していた。
「魅力」が何なのかをとらえきれていない。

■伝統文化芸術活動にかかる費用負担の増加により、同規模のパフォーマンス継続が困難となっている。

※未計測　松江市民美術展（中止）
松江伝統芸能祭（未開催年）

改善策

・発信する「魅力」を充実させ、単なる情報発信としない。
・経費拡大の時ほど内容を見返し、必要部分の取り組みを強化する。

令和7年度実績

（単位：事業）　　（単位：百万円）

	R7事業数	R7決算額	R7予算額	R6決算額
 古代から近代までの豊富な文化財	73	836	861	1,362
 地域に根づく伝統文化	16	53	53	56
 市民生活に根づく茶の湯文化	23	232	256	243
 小泉八雲が五感で感じた 松江の生活文化	29	214	272	256
 市民とともに育む文化芸術活動	27	422	414	410
 伝統文化芸術活動の拠点となる施設	41	1,468	1,479	1,943
 宍道湖、堀川、中海等の松江的景観	34	371	345	279
計	**243**	**3,596**	**3,680**	**4,549**
【再掲】重複除く	163	2,714	2,770	3,464

第2期計画に掲げる４つの課題に対する主な取り組み



01 効果的な情報発信

小泉八雲・セツのドラマを生かした観光振興

「小泉八雲・セツのドラマを生かして化ける松江推進事業」（決算額：56,153千円）・ほか





特設サイト






ばけばけ展
（カラコロ工房）


観光PRブース出展


機運醸成資材によるPR

事業実績

■機運醸成事業、誘客プロモーション事業
・八雲ゆかりの地等での観光PRブース出展（静岡・熊本）
・特設サイト「443が結ぶふたりのキセキ」の開設
・八雲とセツ講座　・イベントの開催　・ラッピングバスの運行
・「あげ、そげ、ばけ」ロゴを活用した各種広告の掲出　など

■商品開発及び販売促進支援事業
・特設サイトでの八雲・セツ関連商品紹介　など

■受入環境整備事業、周遊促進事業
・「ばけばけ展」の開催（カラコロ工房、松江歴史館）
・回遊性向上キャンペーン「あげ、そげ、ばけ　めぐり」の実施
・施設の観覧環境改善
（予約システムの導入、小泉八雲記念館のWi-Fi環境整備）　など

成果・分析

・「あげ、そげ、ばけ。」ロゴは使用申請件数333件。山陰広告賞グランプリ、鈴木三郎助広告大賞プリント部門賞を受賞するなど、「小泉八雲とセツが出会ったまち松江」が県内外に広がった
・「あげ、そげ、ばけ。めぐり」により、複数の施設を回遊した人が74,360人増加（約1.9倍）　（調査期間：R7.8～R8.3）
・ドラマの放送による盛り上がりを一過性にしない取組みが必要

02 鑑賞・体験・学習の機会の確保

松江・森の演劇祭事業
（決算額：31,299千円）







事業実績

■松江・森の演劇祭は3年に1度開催しており、令和7年度の第8回目を支援した。
〇開催日：令和7年10月30日（木）
～11月8日（土）
〇会場：しいの実シアター・他
〇出演：5カ国9集団
〇総参加者：4,604人

成果・分析
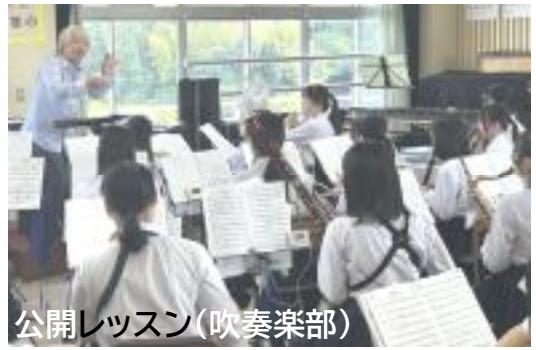
■諸物価高の影響を受け会場・公演数を減らしたものの、4,600人を超える参加者がいた事は評価できる。海外団体招聘の方法検討、ボランティアの好接客等の工夫と努力が成功に繋がった。
■期間中の平日は幼保園・小・中学校の団体観劇を行い、予定を超える申込があったため、次回はステージ数増を検討する。

ぷらっとプラバ魅力発見事業
総合文化センター運営（決算額：1,863千円）





小学生親子ペア無料招待


公開レッスン（吹奏楽部）



事業実績

■小学生親子ペア無料招待【全8公演】
〇招待者数：延べ144組288人
■公演リハーサル無料公開
・N響メンバーによるピアノクインテット
〇参加者：19人
■音楽家による公開レッスン【アウトリーチ】
松江四中、松江二中、美保関中、島根中、東出雲中で実施（延べ150人参加）
■プラバを活用したイベントの実施
・プラバの夏祭り（8/5～8/9）
来場者延べ 2,062人
・プラバの冬祭り（12/13）
来場者 230人

成果・分析

■想定した目標（事業参加人数2，500人）を上回る参加者数（2,749人）となり、順調に推進することができた。

■演者とのスケジュール調整により実施の可否が左右される取組もあり、どのような取組が確実で最も効果的であるかを常に検証する。

03 後継者・担い手育成

小泉八雲・セツ普及促進事業



（決算額：7,700千円）











小泉八雲を縁とする連携協定

事業実績

■小泉八雲とセツ普及冊子製作
一般向けと小学生向け冊子を製作し、市民に配布（配布数：一般4,200冊、小学生1，400冊）

■出前講座の実施
冊子を利用した出前講座を実施
実施件数：24件　参加者数：857人

■トークイベントの実施
開催回数：4回　参加者数：214人

■熊本市・焼津市との連携協定締結
小泉八雲を縁とする連携協定を締結し、研究やイベントなどで連携協力した。
・熊本市の朗読会のリモート鑑賞会（八雲忌）
・松江歴史館での焼津市のPR　など

成果・分析

■ドラマの影響は大きく、普及冊子・出前講座・トークイベント等の小泉八雲・セツに関する内容に対しての多数問い合わせから、関心の高まりを実感した。

■（令和8年2月）熊本城マラソン会場にブースを出展し、参加者・熊本市民に八雲の世界観や鏡の池を体験していただいた。

松江の文化力次世代育成・継承事業



（決算額：2,000千円）





茶碗作り


和菓子作り


武者怪談



事業実績

■開催実績
・期間：10月11日（土）～12月6日（土）
・体験教室：9回開催
・総参加者：258人（目標：250人）
・満足度（平均）：4.82（5段階評価）　n＝208
・全参加者に【参加賞・認定証】を配布

■体験教室
①弦楽器体験②行燈作り③鞳＆お抹茶体験
④八雲塗絵付体験⑤抹茶茶碗作り
⑥煎茶茶碗作り⑦和菓子作り体験（クマ）
⑧和菓子作り体験（イチゴ）⑨武者怪談

成果・分析

■本事業は4年目を迎え、今年度は規模を縮小したものの、予約開始直後から申込が殺到し、人気ぶりは衰えなかった。リピーターが多く、最多4教室へ参加する親子を含め、2教室以上参加した親子は48組であった。

■朝ドラ「ばけばけ」の影響を受けた怪談ブームを期待し、武者怪談を初めて取り入れたが、内容の魅力発信不足、夜間開催のため集客に苦戦した。一方で、参加者の評価は高く、開催時間や広報戦略を見直す参考にする。

03 後継者・担い手育成

郷土芸能継承発展事業
（決算額：920千円[内：60千円]）





佐陀神能保存会



伝承ホーランエンヤ
馬潟櫂伝馬保存会

目的
■松江の伝統文化を担う後継者育成を目的とし、令和7年度より後継者育成助成制度を設けた。※上限30,000円/団体
対象：松江市伝統芸能文化保護育成協議会加盟（23）団体の活動

事業実績
■令和7年度　助成団体　2団体
・佐陀神能保存会　30,000円
・伝承ホーランエンヤ馬潟櫂伝馬保存会　30,000円

成果・分析
■申請2団体は、各文化が根付く地域の小中学校に出向き、実演・体験を通じた出前授業を行った。授業後には活動の内容や、活動日時などを聞く生徒もいて、若い世代も興味を持つ魅力があると肌で感じ取ることができた。
■活用促進のため、令和8年度の協議会で2団体が出前授業の事例を発表して紹介した。

職人商店街創出事業
（決算額：6,557千円）



事業実績
■職人商店街の広がりを目的として「職人商店街認証制度」を創設。

■職人の手仕事の「観える化・体験」に取り組むフラットスタイル株式会社の移転開業を支援。
令和7年11月オープン

成果・分析
■令和7年度に新たに1店舗が加わり、合計7店舗となった。

■職人商店街認証店舗には目印となる認証ステッカーを交付した。
今後、既に自社で観える化、体験提供を行う店舗も加えて対象店舗増加に向けて取り組んでいく。

フラットスタイル
『実演工房』オープン



「職人商店街認証店舗」
認証ステッカー



04 資金確保

ふるさと納税　寄附額:661,679千円
（目標額:600,000千円）



小泉八雲　特設ページ



返礼品パンフレット





事業実績

■令和7年度は寄附額661,679千円（前年度515,117千円）であり、これは前年度比128%の成果となった。
■「松江の文化力を生かしたまちづくり」に対する寄附は、31,888千円で全体の4.8%となっている。
■令和7年度の取り組み
〇「小泉八雲『怪談』コラボ返礼品特集」特設ページ開設
〇松江城天守国宝指定10周年返礼品パンフレット作成

成果・分析

■寄附額は順調に伸びており、取り組みの効果が現れている。他地域にない魅力ある返礼品の開発や、寄附者情報の分析をもとにした情報発信の手段を検討する等、引き続き取り組みを強化する。
また、他自治体の事例に学び、新規松江ファンの獲得及びリピーターを定着化させる。

令和8年度の中間報告



予算額まとめ

（単位：事業）　（単位：百万円）

	R8事業数	R7事業数	R8予算額	R7予算額
 古代から近代までの豊富な文化財	79	73	1,035	861
 地域に根づく伝統文化	16	16	95	53
 市民生活に根づく茶の湯文化	23	23	306	256
 小泉八雲が五感で感じた松江の生活文化	28	29	299	272
 市民とともに育む文化芸術活動	27	27	461	414
 伝統文化芸術活動の拠点となる施設	42	41	1,727	1,479
 宍道湖、堀川、中海等の松江的景観	34	34	426	345
計	**249**	**243**	**4,349**	**3,680**
再掲重複除く	169	163	3,072	2,770

01 効果的な情報発信

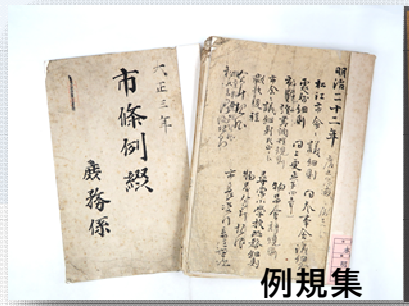
文化財情報発信施設整備事業（松江市文書館・埋蔵文化財センター）



（予算： 125,766千円）

松江市文書館

歴史的に重要な公文書と地域に残る歴史資料を収集・保存し、市民の利用に供する。



例規集


商家（明治時代）

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財の収蔵庫等の機能を拡充し、考古学的調査・保存・活用をするための拠点



目的

■新たに松江市文書館と埋蔵文化財センターを整備・併設することで、文献資料と埋蔵文化財を一体的に調査研究・発信する。（旧環境センター（松江市学園南）を改修）

■松江市が誇る豊富な文化財を通して、松江の歴史や文化を知ることのできる拠点を作る。

中間実績

■令和8年3月30日に公布した「松江市文書館の設置及び管理に関する条例」に基づき、文書館の規則・要綱を準備中（3月施行予定）
■文書館・埋蔵文化財センター施設の改修工事中（7月～11月末）
■本庁舎からの執務室移転

01 効果的な情報発信

重要伝統的建造物群保存地区推進事業

（予算：6,240千円）





伝建地区遠景



松江市伝統的建造物群保存地区保存審議会





選定記念事業

目的

■美保関町の美保神社周辺に残る歴史的な町並みの保存・活用を通して、地区の生活や生業を継承し、美保関固有の歴史的風致を向上させることで、地区の魅力を高め、地区住民の誇りを育み、次世代へと継承するもの。

中間実績

■**重要伝統的建造物群保存地区の選定**
令和8年9月4日に美保関地区（松江市美保関町）が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

■**選定記念事業**
記念式典、地元団体によるイベントを開催した。
日程：令和8年9月12日（土）　会場：美保関地区

■**町並み保存・まちづくり支援事業**
選定地区内の伝統的建造物の修理・修景事業（実施中）。
松江市伝統的建造物群保存地区保存審議会を6月に開催した。

01 効果的な情報発信

重文木幡家住宅主屋ほか10棟建造物公開活用事業

（予算：国補助23,041千円、市補助2,033千円、所有者2,034千円）





主屋



飛雲閣



公開エリア図



ガイダンス室（イメージ例）

※松江歴史館

目的

■宍道町における文化の核となる木幡家住宅の文化財的価値を発信するとともに、現在実施中の保存修理工事の記録や、木幡家に代々伝わる貴重な調度品等を広く一般に公開する。適正な保存とその活用を図り、文化財的価値を確実に後世に引き継ぐ。※公開：R13～

中間実績

下記の内容を実現するための基本・実施設計

■テーマごとにエリアを分けた公開

・江戸期の商家並びに本陣機能についての展示
・皇太子嘉仁親王（のちの大正天皇）行在所「飛雲閣」に関する展示
・木幡家屋敷図の歴史的変遷に関する展示　など

■ガイダンス室の設置

・約12カ年にわたる大規模保存修理工事の様子を映像発信する設備

■展示スペース、来客用トイレ等の整備

・調度品等の展示スペースを増設
・来館者に安心して観覧いただけるよう客用トイレを設置

01 効果的な情報発信

松江伝統芸能祭・ユネスコ無形文化遺産登録15周年-神座-



松江伝統芸能開催負担金（予算　5,084千円）









目的

■本市の貴重な伝統芸能文化の継承・発展を図るため、松江伝統芸能祭は2年に1度、神座は周年事業として開催する。この機会により、松江の伝統文化を市民に「知って」もらい、「伝える」とともに、次世代の後継者や人材を「育てる」事を目的としている。また、松江市伝統芸能文化保護育成協議会の加盟団体等による「発表」の場としている。

中間実績

■開催決定
令和8年5月27日（水）松江市伝統芸能文化保護育成協議会代表者会議において「松江伝統芸能祭・ユネスコ無形文化遺産登録15周年-神座（かむくら）-」の開催を決定した。
日程：令和9年3月7日（日）　午前中/神座、午後/松江伝統芸能祭（予定）
会場:さんびる文化センタープラバホール
■今後の流れ
・10月　松江伝統芸能祭・神座実行委員会の開催、参加団体への依頼
　　委託業者選定
■ゲストとして岩手県・早池峰（はやちね）神楽を招聘

01 効果的な情報発信

小泉八雲・セツのドラマを生かした観光振興

「小泉八雲・セツのドラマを生かして化ける松江推進事業」（予算：33,000千円）・ほか




「ばけバス」


観光PRブース出展


「ばけばけ」ドラマ館





「小泉八雲月間」
（オープニングセレモニー）


「小泉八雲月間」
（小泉八雲生誕祭）

目的

■小泉八雲・セツをモデルとした連続テレビ小説の制作・放送を最大限に生かして観光振興を図るとともに、小泉八雲・セツの精神・功績を後世に引き継いでいく取組みを推進する。

中間実績

■機運醸成事業、誘客プロモーション事業
・三大都市圏等での観光PRブース出展（名古屋・静岡・大阪・東京）
・円井わん×上定市長 トークショーの開催
・八雲とセツ講座の実施　・NHK松江放送局との共催イベントの開催
・ラッピングバスの運行
・あげそげばけロゴを活用した各種機運醸成資材の掲出　など

■受入環境整備事業、周遊促進事業
・「ばけばけ」ドラマ館のオープン（令和8年5月17日～）
・「小泉八雲月間」の開催（6月・9月）※令和9年2月にも開催予定
・ばけバスの運行（9月よりコースにドラマ館を追加）
・小泉八雲とセツゆかりの地デジタルスタンプラリーの実施
（令和8年7月25日～）

02 鑑賞・体験・学習の機会の確保

小泉八雲・セツ普及促進事業

（予算：6,803千円）









目的

■小泉八雲の妻・セツを主人公とした連続テレビ小説「ばけばけ」の放送を契機に、市民に向けて小泉八雲・セツへの理解促進を図る。

中間実績

[出前講座]
■開催状況（9月時点）
〇実施件数:14件
〇参加人数:270人 ※R7実績:24件/857人
■受講団体は、比較的高齢者団体が多い傾向にある。学校からの問い合わせが増加しており、下期は受講者数が増えると想定している。

[トークシリーズ「小泉八雲ふたたび2026」全6回]
■開催状況（9月時点）
〇実施件数：3回　　〇総参加者：227人
〇会場：島根県立美術館、STIC交流ホール
■少しマニアックさもあり、小泉八雲についてこれまで多く学んだ方でも聞き入る内容として、各回人気。

電子図書館運営費

（予算：9,230千円）







目的

■紙の本を読むことが困難な人や、図書館への来館が難しい人など、誰もが気軽に本にアクセスできる機会を提供する
■デジタルを活かした児童生徒への読書の普及拡大

中間実績

■地域未来交付金を活用
■令和8年8月27日サービス開始
■開始時点のコンテンツ数
約12,700点
■令和8年8月29日「電子図書館使い方講座」を開催（参加者：25人）
■開始2週間の利用状況（9月9日時点）
利用者実人数：561人・貸出：829点
■令和9年度以降、小中学校での活用に向けて事業を推進

03 後継者・担い手育成

松江の文化力次世代育成・継承事業

地域に根付く伝統文化継承事業補助金（予算：300千円）













目的

■市内全域の伝統芸能・行事や、地域で行われている小さなお祭りを今後長きにわたり継承していくため、行事等の開催を支援し、記録・保存を行うことにより、郷土愛の醸成や地域の絆づくりを促進する。
・上限5万円（1団体あたり・対象経費10分の10の額）

中間実績

■申請：3団体（9月現在）
［補助事業名称］
①天神さん夏祭り神輿パレード（7/25）　※実施・補助金交付済み
②祇園社神幸祭「通称:ガッチ祭り」（10/23）
③鞆行列「城西まつり」（10/24）
※過去交付実績　　R4:6件　R5:5件　R6:1件　R7:2件

■事例紹介：天神さん夏祭り神輿パレード
天神・白潟・竪町等で開催され、2日間で3万人が訪れる。
1600年頃から続く伝統的なお祭り。
対象経費：神輿照明購入・音響機器レンタル・法被クリーニング

03 後継者・担い手育成

松江の文化力次世代育成・継承事業



松江の文化力体験（予算：2,000千円）







目的

■こどもとその保護者が伝統文化や文化芸術に触れる機会を提供する。松江の文化力を知り、楽しみながら体験することで、松江の文化力への関心を高め、担い手の確保や地域の伝統文化の継承を図る。

中間実績

■10月：参加者募集（予定）

【文化体験プログラム】
- 和菓子づくり体験
- 秋の里山文化体験ツアー
- 出雲そば打ち体験
- 怪談語りとまち歩き
- 茶の湯体験（きはる庵）

当日の飛び込み参加OK！

【文化体験イベント】
- 「ミライソウゾウ会議」イベント内で文化体験コーナーを展開

宍道地域伝統工芸品育成事業



（予算：237千円）



↑来待小学校での体験事業の様子
※写真は昨年度実施分



↑宍道小学校での体験事業の様子
※写真は昨年度実施分

目的

■誰もが松江の伝統文化芸術を誇りに思い、心豊かになれるまちであり続けることを目指し、宍道地域の来待石による伝統工芸を継承し、育成していく。

中間実績

■ 来待石鉢と苔玉つくり体験を開催（6月）
■ 松江市新庁舎オープニングイベント、宍道ターミナルフェスへ出展（5月）
■ 玉湯町旧大谷小学校のノヴィーコンサートに来待石ライトを展示（6月）
■ 文化財への来待石使用について、市への協力依頼
■「瑞風」の出迎えを好機とした来待石のPR
■市内小学校で職人指導による体験を実施予定（10月・11月）

04 資金確保

ふるさと納税(目標額:700,000千円)

寄附額:131,016千円(7月末時点)











目的

■松江市の魅力あるふるさとづくりに資する事業に対して寄附金を募り、これを財源として活用するとともに、ふるさと納税返礼品等を通じて松江市の魅力を全国に発信する。

■文化振興事業費へ活用することで財源の安定化を図る。

中間実績

■令和8年7月末で、寄附額131,016千円(前年96,025千円)であった。これは前年同期比136.4%であり、順調に推移している。

■「松江の文化力を生かしたまちづくり」に対する寄附は、5,828千円(前年同期3,747千円)で全体の4.4%となっている。今後目標到達に向けより一層取り組みを強化しいく。

〇公式LINEの開設により、新着・オススメ返礼品を発信
〇返礼品に関連する観光地や松江の文化情報を紹介

今後の主な
スケジュール



今後の主なスケジュール

松江市民文化祭
10/10(土)～12(月)

会場　さんびる文化センター
プラバホール

菅田菴茶会
11/8(日)

会場　菅田菴

10月　11月　3月

松江祭鞴行列
10/18(日)

経路　松江城-松江大橋-白潟天満宮

茶の湯の日イベント
10/31(土)・11/1(日)

会場　イオン松江店

松江伝統芸能祭
ユネスコ無形文化遺産登録15周年-神座-
3/7(日)

会場　さんびる文化センター
プラバホール

意見交換

